

199 十字架上での最後の3時間

ルカによる福音書 23：44～45 他

▶ルカによる福音書 23：44～45

44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：3 / 聖句等の総数 33250 <十二時>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：十二時]
S	マタイによる福音書	27:45 さて、 <u>昼の十二時に</u> 、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。	
S	マルコによる福音書	15:33 <u>昼の十二時になると</u> 、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。	
S	ルカによる福音書	23:44 既に <u>昼の十二時ごろ</u> であった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。	

45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。

・・・・・・・・・・ 以下、金曜日の午後3時からの出来事である ・・・・・・・・・・

▶マタイによる福音書 27：46

三時ごろ、イエスは大声で（→全地に響き渡って）叫ばれた。「エリ（エリヤの短縮形のヘブライ語）、エリ、レマ、サバクタニ（アラム語）。」

これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。→**第4の言葉**
→マルコによる福音書 15：34

三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」（アラム語）これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

→詩編 22：2

わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか。

第1の言葉：ルカによる福音書 23：34・・・・・・・・ファイル No.197

「そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。

→午前 9 時に十字架につけられた時の言葉である。新共同訳聖書や聖書協会共同訳聖書では真正性を疑われるものとして、カッコ [] 書きしている。しかし、ステファノの殉教の聖句（使徒言行録 7：60）は本節を前提にしていることから真正性がある。

第2の言葉：ルカによる福音書 23：43・・・・・・・・ファイル No.198

するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

第3の言葉：ヨハネによる福音書 19：26～27・・・・・・・・ファイル No.198

イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母（マリヤ）に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子（ヨハネ）に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

▶マタイによる福音書 27：47

そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。
→エリヤは、「わが神」を意味するアラム語（エロイ）またはヘブライ語（エリ：エリヤの短縮形）のように聞こえることがある。あるいは、預言者エリヤが到来し、メシアのために道を備えると人々は期待していたので、イエスがエリヤを読んでいると思ったのかもしれない（マラキ 3：23～24）。エリヤはイエスの誕生する 800 年以上前のイスラエルの預言者である。

▶ヨハネによる福音書 19：28

この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「**渴く**」と言われた。→**第5の言葉**
こうして、聖書の言葉が実現した。これは、詩編 22：16、42：3 の成就であると考えられている。

→詩編 22：16

口は渴いて素焼きのかげらとなり／舌は上顎にはり付く。あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる。

→詩編 42：3

神に、生ける神に私の魂は渴く。／いつ御前に出て、神の御顔を仰げるのか。

【参考】 聖書にある「渴く」

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：10 / 聖句等の総数 33250 〈渴く〉10個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：渴く]
K	詩編	42:3 神に、命の神に、わたしの魂は渴く。いつ御前に出て／神の御顔を仰ぐことができるのか。	
K	イザヤ書	48:21 主が彼らを導いて乾いた地を行かせるときも／彼らは渴くことがない。主は彼らのために岩から水を流れ出させる。岩は裂け、水がほとばしる。	
K	イザヤ書	49:10 彼らは飢えることなく、渴くこともない。太陽も熱風も彼らを打つことはない。憐れみ深い方が彼らを導き／湧き出る水のほとりに彼らを伴って行かれる。	
K	イザヤ書	65:13 それゆえ、主なる神はこう言われる。見よ、わたしの僕らは糧を得るが／お前たちは飢える。見よ、わたしの僕らは飲むことができるが／お前たちは渴く。見よ、わたしの僕らは喜び祝うが／お前たちは恥を受ける。	
K	アモス書	8:11 見よ、その日が来ればと／主なる神は言われる。わたしは大地に飢えを送る。それはパンに飢えることでもなく／水に渴くことでもなく／主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渴きだ。	
S	マタイによる福音書	5:6 義に飢え渴く人々は、幸いである、／その人たちは満たされる。	
S	ヨハネによる福音書	4:13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。	
S	ヨハネによる福音書	4:15 女は言った。「主よ、渴くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」	
S	ヨハネによる福音書	6:35 イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。	
S	ヨハネの黙示録	7:16 彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、／太陽も、どのような暑さも、／彼らを襲うことはない。	

▶ヨハネによる福音書 19：29～30

そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブに付け、イエスの口もとに差し出した。イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。→**第6の言葉**

→酸いぶどう酒は、安いぶどう酒と酢、そして「苦いもの」（詩編 69：22、箴言 27：7、マタイ 27：34）と呼ばれる薬が混ぜられた。この混合液は、十字架の苦しみを和らげ、死を早めるものだった。ヒソブは、灌木（枝が群がりをはえる木）のような根と頑強な茎を持つ植物であるとされるがヒソブの正体については不明である。今日ではシソ科の多年草である、マジョラムの近縁種であるシリアンオレガノ *Origanum syriacum* が聖書のヒソブとみなされている（右図）。→イエスの「成し遂げられた」という言葉は、この世の命が終わったというだけでなく、この世の罪の犠牲となるようにと、神がイエスをこの世に遣わした目的が成就したことを意味している。



【参考】聖書に登場する「ヒソブ」

タイトル(書名)		章:節 聖句	〔検索対象総数：12 / 聖句等の総数 33250 〈ヒソブ〉12個〕	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) 〔検索語彙：ヒソブ〕
K	出エジプト記	12:22	そして、一束のヒソブを取り、鉢の中の血に浸し、鴨居と入り口の二本の柱に鉢の中の血を塗りなさい。翌朝までだれも家の入り口から出てはならない。	
K	レビ記	14:4	祭司は清めの儀式をするため、その人に命じて、生きている清い鳥二羽と、杉の枝、緋糸、ヒソブの枝を用意させる。	
K	レビ記	14:6	それから、杉の枝、緋糸、ヒソブおよび生きているもう一羽の鳥を取り、さきに新鮮な水の上で殺された鳥の血に浸してから、	
K	レビ記	14:49	そして、この家屋の汚れを清めるために、二羽の鳥、杉の枝、緋糸およびヒソブを用意する。	
K	レビ記	14:51	次に、杉の枝、ヒソブ、緋糸と共にもう一羽の生きている鳥を取って、さきに殺した鳥の血と新鮮な水に浸し、家屋に七度振りまく。	
K	レビ記	14:52	こうして、鳥の血、新鮮な水、生きた鳥、杉の枝、ヒソブおよび緋糸をもって家屋を清める。	
K	民数記	19:6	祭司は、杉の枝、ヒソブ、緋糸を取って、雌牛を焼いている火の中に投げ込む。	
K	民数記	19:18	身の清い人がヒソブを取ってその水に浸し、天幕とすべての容器およびそこにいた人々に振りかける。更に、人骨、殺された者、死体あるいは墓に触れた者に振りかける。	
K	列王記上	5:13	彼が樹木について論じれば、レバノン杉から石垣に生えるヒソブにまで及んだ。彼はまた、獣類、鳥類、爬虫類、魚類についても論じた。	
K	詩編	51:9	ヒソブの枝でわたしの罪を払ってください／わたしが清くなるように。わたしを洗ってください／雪よりも白くなるように。	
S	ヨハネによる福音書	19:29	そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブに付け、イエスの口もとに差し出した。	
S	ヘブライ人への手紙	9:19	というのは、モーセが律法に従ってすべての掟を民全体に告げたとき、水や緋色の羊毛やヒソブと共に若い雄牛と雄山羊の血を取って、契約の書自体と民全体とに振りかけ、	

▶ルカによる福音書 23：46

イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」 こう言って息を引き取られた。

→**第7の言葉**

▶ヨハネによる福音書 19：30

(イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、) 頭を垂れて息を引き取られた。

・・・・・・・・・・ 以上、**金曜日の午後3時**までの出来事である ・・・・・・・・・・

聖書から見た過越祭と除酵祭、そしてイエス・キリストの磔刑

ニサンの月

第一の月の十四日の夕暮れが主の過越である。同じ月の十五日は主の除酵祭である。(レビ記23:5~8)

㊤聖書記述通りの図表示

十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日
夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼

10日: 小羊を一匹用意する(出エジプト12:3)

●14日夕暮れ: 小羊を屠り、その血を二本の柱と鴨居に塗る(出エジプト12:6~7)

15日夜: 小羊の肉を火で焼き食べる(出エジプト12:8)
過越祭: 主の過越し(出エジプト12:11、12)

十四日夕方

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

除酵祭: 七日の間(十四日夕方から二十一日の夕方まで)
酵母を入れないパンを食べる(出エジプト12:15、12:18)

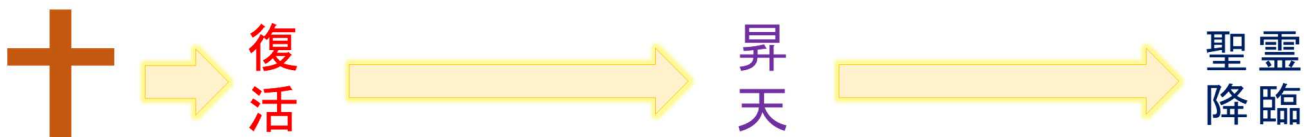
金	土(安息日)	日
夜	昼	夜

緑: 過越祭→

最後の晩餐→ ● 除酵祭の第一日、過越の小羊を屠る日(マタイ26:17、マルコ14:12、ルカ22:7、8)

キリストの磔刑→ ● キリスト復活→ ●

【参考】イエスの十字架から聖霊降臨まで



1	2	3日目	1	2	...	39	40日目	1	2	...	9	10日目
金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月
3			40					10				

金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月
---	---	---	---	---	-----	---	---	---	---	-----	---	---